

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育力・組織力・企画力を構成要素とする「学校力」のさらなる向上を図ることにより、生徒一人ひとりの個性・能力を最大限に伸ばすとともに、自ら目標を定め、その実現に向けて全力で努力する生徒を育てる。 1. 学習指導・進路保障体制の一層の充実により、「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」をめざす 2. 主体的・自律的な努力を怠らず、自己の向上に努める生徒を育成する、「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」をめざす 3. 自己表現力、コミュニケーション能力を育て、国際社会で活躍する人材を育成する、「グローバルに考え、行動する学校」をめざす
--

2 中期的目標

【未来をひらこう颯爽と】 → 本年度で63年の歴史を刻む本校は、これまでのよき伝統を継承して、さらなる発展をめざし、生徒が未来に向けて「颯爽」と（校歌の一節「颯爽たり 枚方」に因む）飛躍、世界規模で活躍していくことを願って、中期的目標の冒頭にこの言葉を掲げる。 1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現に向けて （1）生徒一人ひとりが自己実現を果たすための「確かな学力」を身に付けるよう、全教員が「授業改善」に取り組む。 ・学習指導要領の改訂の趣旨及び内容を踏まえ、国や大阪府の様々な教育改革や動向にも応じられるよう、「新枚高マップ」の令和7年度中の改善及び普及、8年度以降の充実をめざす。 ・各教科において、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし「観点別学習状況の評価」を進めるとともに、これまでの教育実践にICTを効果的に取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせること等により、学びの深化を図る。 ・国際文化科を設置する学校として全校的に「総合的な探究の時間」の充実を図り、課題発見・解決する資質・能力を育むための学びを構築していく。 ・リーディングGIGAハイスクール指定校として、校内体制の整備を一層進め、1人1台端末を積極的に活用した授業実践のための教員研修や公開授業を実施する。これらの取組み等により、令和9年度以降、学校教育自己診断（以下「自己診断」という。）における「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率85%（R4 85% R5 89% R6 86%）とともに、授業アンケートにおける満足度3.4以上をめざす。（R4 3.36 R5 3.34 R6 3.34） （※「満足度」：授業アンケート「問8 授業内容に興味・関心を持つことができた」「問9 知識・技能が身に付いた」の全教員の評価平均（4点満点）） （2）夢と志を持つ生徒の育成を図るとともに進路保障体制をさらに充実させる。 ・最後まで目標に向けてチャレンジする生徒を育てることにより、令和9年度には現役生の国公立大学合格者10人以上をめざす。（R4 4人 R5 5人 R6 3人） ・生徒支援体制を一層充実させ、自己診断における「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率を令和9年度85%以上に。（R4 82.3% R5 83.3% R6 84.9%） ・「総合的な探究の時間」においてSDGs課題研究・キャリア教育・人権教育・国際理解教育等を体系的に実施し、課題を発見し解決する力を育成するとともに、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成に努める。自己診断における「総合的な探究の時間（枚方未来学）は自分の成長に役立っている」（R4 80.1% R5 81.2% R6 80.4%）の肯定率を令和9年度に85%以上とする。 2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現に向けて （1）学校行事の充実、部活動の活性化を図る。 ・学校行事での主体的な取組みを支援し、自己診断における「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率、令和9年度90%以上を維持する。（R4 88.0% R5 92.0% R6 92.2%） ・部活動加入率について、令和9年度に80%を達成するとともに、一層の増加をめざす（R4 76.1% R5 75.1% R6 75.0%） （2）生活規律を確立させる取組みを充実させる。 ・遅刻者数の年間1,000未満を維持し、さらなる減少に向けて、令和9年度に向けて指導を継続していく。（R4 594人 R5 435人 R6 477人） ・制服の着こなし等、身だしなみに関する指導、携帯電話やICT機器の使用に係る指導、自転車の乗車マナーを含めた交通安全指導の充実を図る。 3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現に向けて 令和4年度「学校経営推進費」事業による「枚高で未来をひらこう ～Global Learning Hall から世界に羽ばたけ枚高生～」の計画（視聴覚教室のリノベーションによるグローバル人材の育成の推進）を引き続き実施する。 （1）将来グローバル社会で活躍できるよう英語の4技能（「聞く・話す・読む・書く」）を総合的に育成する授業づくりを推進し、教育活動の様々な場面において、「使える英語力」の伸長を図る。 ・大学等の協力を得ながら、英語暗唱弁論大会を充実し、「インターナショナルフェスティバル」「LETS 合同発表会」等に積極的に参加し、令和9年度には自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率95%以上（R4 89.3% R5 92.8% R6 90.1%）とする。 ・英語検定、英語学力調査等の受検を推奨するとともに、準備講習等を計画的に実施し、令和9年度の国際文化科卒業時には英検2級合格80%以上、準2級合格100%とする。 （2）国際文化科を設置する学校として、全校的に国際交流・異文化理解教育のさらなる活性化、SDGsに関する課題研究等の充実を図る。 ・国際文化科において、3年間を通じたSDGs課題研究及び国際交流・異文化理解教育の取組みを充実させるとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力を育成し、世界規模で考え、自ら考え、調べ、行動、発信できる力を養う。さらに取組みとその成果を普通科とも共有し、令和9年度には自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率を95%以上（R4 90.2% R5 93.6% R6 94.7%）とする。 ・ユネスコ・スクールとしての取組みについて、生徒会執行部や複数のクラブが主体的に関わっていける活動となるよう推進していく。 4 教員組織体制の強化と教育環境のさらなる整備 （1）広報活動の強化。 ・学校外諸機関との連携や渉外及び校内調整、また本校の魅力、スクール・ミッションやスクール・ポリシー（グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）等の情報を積極的に発信するため、中学校訪問・学校説明会等のさらなる改善や情報提供を組織的に行う。 （2）教育環境の整備と業務の効率化の促進を図る。 ・ICT機器の活用を推進するとともに、オンライン等による授業や情報発信・情報収集を積極的に行う。 ・効率的な学校運営に向けて、ペーパーレスの一層の推進、ICTの活用による各会議・研修の効率化をさらに進め、業務縮減を図る。 ・多様な教育ニーズへの対応が求められる中、生徒・保護者・教職員が相互に共感的・協調的に教育活動と学校運営が推進できる関係性・場づくりに努める。 ・DXハイスクール事業により整備した教育環境を生かし、上記1から3に掲げた目標と共に「主体的・対話的で深い学び」「協働性・創造性を生かした探究的な学び」「本校の教育実践を生かした国際交流や地域交流」を通じ、デジタルテクノロジーも活用した生徒の資質能力の向上、自己有用感や自信の醸成を図る。
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒アンケート】昨年度との比較では38項目中28項目・74%は肯定率が増加（増加幅0.2～6.1）し、9項目・24%は減少（減少幅0.1～3.6）した。全般的に肯定率の平均は89.2%と高く昨年度より1.7%の増である。 95.0%以上の項目は「人権について学ぶ機会がある(97.4%0.2%増)」「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある(97.3%1.1%増)」「文化祭・体育祭・修学旅行は意義深いものになるよう工夫されている(96.3%4.1%増)」など7項目・18%（3項目8%増）	＜第一回＞令和7年6月27日（金）13時30分～15時 図書室 ・中学校ではルールメイキングはICT委員が職員会議等で生徒がプレゼンする。生徒指導は中学では生徒支援に変えている。高校ではどのような取組みを行っているか。 →現在、「学校生活向上PT」を立ち上げて生徒との意見交換を予定している。過去の状況も踏まえて生徒、保護者、教員の意見を尊重して考えている。ま

であった。

「授業では自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある(94.7%4.6%増)」「先生はいじめについて真剣に対応してくれる(94.5%1.8%増)」「国際交流の取組みが活発である(93.8%0.9%減)」「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある(93.5%0.7%減)」「授業では課題解決に向け自分で考え自分から取り組んでいる(92.2%0.1%減)」「ホームルーム活動は活発である (91.9%2.9%増)」「授業では評価の基準やポイントが示されている(91.2%2.3%増)」「先生は秘密を守ってくれる(90.3%維持)」「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる (90.2%5.3%増)」など **90%以上は計 19 項目・50%(4 項目 11%増)、85%以上は計 29 項目・76%(5 項目 13%増)**であった。

肯定率が最も増加した項目は、「学校生活についての先生の指導には納得できる」82.3%(**6.1%増**)である。この他「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる(90.2%**5.3%増**)」「先生は生徒の意見を聞いてくれる(88.8%**5.1%増**)」の項目は5%以上増加している。

教員の授業や行事、日々の生活等での指導やサポートを引き続き充実させると共に、指導等に関する趣旨について生徒に理解を図ることで相互の信頼を深め、より一層相乗効果を高められるようにしたい。

肯定率が最も減少した項目は「ボランティア活動が活発である」72.7%(**3.6%減**)である。

教職員の同項目の肯定率も同様に高く (71.8%13.9%増)、活動の機会や内容が縮小していないことを考えると、参加者の固定化、或いは生徒の主体性・自主性の高まりの効果によるものと考えられる。引き続き生徒の「主体性」「利他の心」を尊重した活動を進める。

【保護者アンケート】同様に **34 項目中 30 項目・88%は肯定率が増加(増加幅 0.5～10.3)、4 項目・12%は減少(減少幅 1.3～5.0)**した。全般的に**肯定率の平均は 85.4%**と高く昨年度より3.3%の増である。

肯定率が **90.0%以上**の項目は、高いものから「子どもに関する個人情報を守られている(97.6%1.1%増)」「『保護者用学習支援クラウドサービス』はよく役立っている(93.4%2.0%増)」「枚方高校は雰囲気良く生徒が生き生きしている(92.5%2.1%増)」「1人1台端末を効果的に活用している(92.5%1.3%減)」「教員は生徒の人権を尊重して教育活動に取り組んでいる(91.8%9.7%増)」「子どもに生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を養おうとしている(91.2%0.6%増)」「子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている(90.5%5.6%増)」「教員は保護者の相談に適切に応じている(90.4%2.9%増)」などの **10 項目・29%(4 項目 11.8%増)**であった。また、**85.0%以上の項目が 24 項目・71%(9 項目 26%増)、80.0%以上が 29 項目・85%(5 項目 15%増)**であった。

肯定率が最も増加した項目は、「生徒会活動は活発であると子どもから聞いている」69.0%(**10.3%増**)である。この他「教員は生徒の人権を尊重して教育活動に取り組んでいる(91.8%**9.7%増**)」「生徒指導の方針には共感できる(86.5%**9.7%増**)」「教育方針をわかりやすく伝えている(83.4%**8.8%増**)」「自分の生き方を考え豊かな心を持った子どもを育てようとしている(89.7%**8.2%増**)」など、**34 項目中 11 項目・32%が 5.0%以上増加**している。

最も減少した項目は「ホームページはよく役立っている」63.3%(**5.0%減**)である。
生徒用及び保護者用学習支援クラウドサービスを活用して重要な連絡やお願い、各種情報がタイムリーに配信されており、学校ホームページの「重要なお知らせ」「最新情報」を確認する必要性が非常に低下していることが減少の大きな要因であると考えられる。学校ホームページへの掲載による効果は、保護者や生徒はもちろんのこと、連携先を含む学校関係者、中学生とその保護者、地域の方々に対して様々な学校情報を提供できることである。公式の動画配信サービスやSNSの普及が進む中、学校ホームページによる発信内容の充実を図る必要がある。

最も肯定率が低い項目は「学習環境においての施設・設備は満足できる(**57.1%・2.5%減**)」で、昨年度と続いて減少している(昨年度は2.9減)。本年度で創立63年となり必然的に老朽化が進んでいることは事実である。

こうした中、トイレは生徒が使用する1号館を優先し、乾式化と手洗いを含む全面改装を行い、その後も洋式化を進めている。体育館の空調機器の完備、プールは浄化装置も含め全面的に一新され、雨漏り対策として本年度で屋上に加え渡り廊下の防水工事が完了する。

昨年度と本年度と連続して国のDXハイスクール事業により会議室の黒板のホワイトボード化、各種デジタル機器に加え協働学習にも活用できる可動型椅子と机を会議室全面に配備する。食堂には空調を完備し大型モニター等の設置によるデジタル環境の充実を図っている。中庭の芝生化とベンチの新設で新たな活動と憩いの場として生徒から好評を得ている。

さらに府の関係課からの提案で生徒の意見を反映して実現する食堂リニューアル工事を今年度中に完成させる。来年度は本館及び1・2号館全館の照明をLED化する工事を控えており、この3年間で多額の予算の投入により大幅な施設・設備の充実を図っている。

今後も施設・設備のさらなる充実可能な限り取り組むと共に、こうした新たな施設・設備を生かした活動の様子を保護者にも情報提供するなど理解を深めることも必要である。

【教職員アンケート】全般について、**52 項目のうち 47 項目・90%(昨年度は 27 項目)で肯定率が増加、5 項目・10%(昨年度は 25 項目)で減少**となり、**肯定率の平均は 87.2%と昨年度より 8.5%増加**した。

肯定率が高い項目は「コンピュータやICT機器が授業で活用されている」**100%(2.6%増)**を筆頭に「各教科において、教材の精選・工夫を行っている(97.2%0.1%減)」「授業の指導法について、工夫・改善に努めている(97.2%2.5%増)」「他校にはない特色

た、地域の方々の意見も大事にしたい。

・入試時期が一番気になる。アドミッションポリシーで決めることが大きなポイント。入試改革という仕事を増やし、働き方改革を求めていることは矛盾している。時期を早めれば教科の範囲を早く終わらなければならない。探究活動も意識していかなければならない。

・天候の判断はどのようにしているか。

→雷雨等は注意報に加え天候の状況等をもとにグラウンド等で指導している教員が早期に活動停止等の放送をし対処している。雷検知器の設置も検討している(※設置済み)。

・授業アンケートに関して評価を上げるためにどのような取り組みを行っているのか。

→「ICT授業向上委員会」が中心となりリーディングGIGAハイスクール事業の一環として、ICT機器活用の観点から授業力のさらなる向上を図るため近隣高校の教員と研修を重ね、その成果を校内でも共有している。

・生徒自身がどのような場面でICT機器を活用しているのか。

→生徒の活用は教科により異なるが課題テストの配信等で工夫しており、反転学習を行っている教科もある。従来の板書の効用とICT機器活用を融合させて活用している。

・枚高マップは生徒と共有できているか。

→生徒の主体性を育むために現在は枚高マップを第1・2学年で実践している。

・携帯電話に対する学習は授業以外で行うのか。

→「情報」の授業では、まず情報リテラシー、倫理観等を指導する。また、HR等でも指導を行っている。学校だけではなく家庭と連携をとって指導を考えていきたい。

・PTAと協力して講習等を考えていただきたい。

・先生方の残業はどうなっているのか。

→メリハリをつけて仕事をしている。部活動や行事に熱意をもって指導する教員の勤務時間が超過することが多々ある。

・部活動では外部の指導員が活用できるのでは。

→外部の指導者は活用している。ペアリング校も活用している。

<第二回>令和7年11月21日(金)14時～15時30分 図書室

・枚方高校生徒と部活動で交流できたことがとても良い経験になった。貢献活動を通じて自主性が生まれていると感じる。

・生徒に気付かせること考えさせることを尊重して行っていることに感動した。

・小中学校ではデジタル教科書をどのように活用しているか。紙の教科書から移行するのか。

→高校では教科の特性に応じて殆どの教科で活用している。

・府が改修工事を予定していると聞いたが枚方高校はどうなるのか。

→枚方高校も予算を確保できたら計画を立てたい。各箇所を随時改修している。

・不登校の生徒はどのくらいの人数がいてどのような対応を行っているのか

→本校の不登校生徒は少ないが遠隔授業を行い対応している。今後に向け教務部や生徒支援委員会が共通理解を図り考えながら整備が進んでいる。学校生活については生徒の諸事情を考慮しつつ考えている。

・中高でフォローされた生徒は大学で踏ん張っている感覚がある。

・スクールポリシーについて学校生活を重視していただく考え方は普段の頑張り进行评估していただけるということで生徒にとって良いものだと感じる。

<第三回>令和8年2月25日(水)10時～11時30分 図書室

・学校経営計画と学校評価に関して、第三者評価を行っていますか。

→学校関係者評価は行っているが本校では行っていない。

・御校では、食堂のデザインに生徒がかかわるなど、生徒が学校を変える取組みがある。社会とかかわる中で社会をかえて行けるか、という数値をとると、興味深い結果が出ると思う。

・人権を大切にしているという項目の数値が高い。

→テーマを3年計画で決めて実践している。生徒の人権感覚が高いのは、幼小中の教育のつながりの賜物である。

・ボランティア活動はどのような内容に参加しているか。周知の方法は。

→近隣の清掃、ふれあいマラソンにおける補助など。行政機関から来たものをまとめて掲示している。

・教員からの回答では、読書活動が低くなっているが。

→生徒のアイデアにより校内放送で本を紹介している。探究する心を育てるうえでも、読書の大切さを伝えたい。

・4月からの道路交通法改正について生徒への周知については。

→本校はマナーを守る生徒が多いが、交通安全に努めたい。

・SNSやAIについては、より良い探究のためにどのように利用するかが、大切です。

・教員の時間外勤務時間が720時間を超える場合があることについて、休暇を活用しないというケースもあると聞いている。先生たちのライフワークバランスも大切です。

・校内を見ていてきれいに使っていると感じた。絵本のコーナーや生徒がリラックスした状態で読書ができるコーナーがあるとよいと思う。

・現在夙あげを園児たちと高校生がしているが、他に読み聞かせなどすれば、幼稚園児たちとの交流が広がる可能性がある。

・「自主性」という言葉は、分かるようで難しい。高校生が理解しているか、指導の仕方、説明の仕方が気になる。

がある（95.1%2.9%増）」「学校行事が魅力のあるものになるよう工夫・改善を行っている（95.0%2.9%増）」「生徒会活動など、民主的で主体的な活動を支援している（95.0%2.9%増）」など肯定率95%以上は11項目・21%（6項目・12%増）、90%以上は23項目・44%（12項目・23%増）、80%以上は42項目・81%（23項目・44%増）であった。 肯定率が増加した項目は「清掃が行き届いている」92.7%(21.6%増)を筆頭に「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、意欲的に取り組める環境にある（94.6%20.9%増）」「校則が適切であるか話し合う機会がある（63.9%19.2%増）」「職員会議をはじめ各会議が有効に機能している（76.3%18.4%増）」など、20%以上2項目、15%以上11項目、10%以上24項目の肯定率が増加した。 肯定率が低い「校則（63.9%19.2%増）」と「読書活動（66.7%8.8%増）」については、生徒の意見も受けとめつつ協議するなど組織的に改善を図る。生徒会活動を含む生徒の主体的で自律的な行動を促すと共に、生徒・保護者の理解を得られるよう取り組む必要がある。	→自分事としてとらえるのが大切である。そのためには、対話が大事である。 ・いじめがあり、しんどい思いをしている生徒がいる学校があるが、その学校でもアンケートをしているのか、事前につかめないのかと思う。 →どの学校にもありえる。危機管理を続けていく。アンケートの肯定率が高いとしても残る数%があり、そこに視点を据えることが大切である。それがじわじわと効く教育につながる。つながりを持つことが大切であり、様々な工夫続けている（例えば日直日誌）。 ・PTA活動について、今後どうしていくか。 →PTA活動は重要。やりがいを感じられる説明と、趣旨のご理解でつないでいくことが大切である。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現	(1) 全教員の授業力向上	ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を行い、授業アンケートの結果について、全教員が真摯に受け止め、更なる改善に向けて取り組む。 イ 教科内だけでなく教科を越えた教員相互授業の見学や他校等の先進的な実践を視察する機会を活用し、ICTの活用やグループ学習などの研究・研修の充実に努める	ア 授業アンケートにおける「満足度」の3.30以上の維持[3.34] イ ・相互授業見学期間を2回設け研鑽の機会とする。[2回] ・教科内だけでなく教科を越えて授業見学など実施することで、自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率を向上させる。[85.9%]	ア 授業アンケートにおける「満足度」は3.39(0.05増)と向上した。(○) 「対話」「引き出すこと」を重視し、生徒の思考を深める発問、主体的・協働的な学び、ICT機器の活用等、授業方法の工夫を生かす実践の効果が認められる。今後とも更なる改善に取り組む。 イ ・授業見学期間(6月・11月)として2回実施した。さらに、初任者研修やリーディング GIGAハイスクール事業の一環として公開授業、研究授業を実施し教科の枠を越えて研鑽を図った。(◎) ・「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率は88.8%と2.9%増加した。その他の授業関連項目についても生徒・保護者・教職員の肯定率は増加しており相乗効果も認められる。(○) 引き続き相互見学や授業研究を活性化すると共に「気づきと創発」の促進を図る。
	(2) 夢と志を持った生徒の育成、進路保障体制のさらなる充実	ア・家庭学習を含めた学習指導のあり方について、教科・学年を越えて検討・実践を進め、生徒の更なる学力向上を図る。 ・調べ学習や言語活動を充実させるため読書活動を推進する。その際、教科や生徒委員会による図書館を活用した学習や活動を充実させる。 イ 学習指導、進路指導の充実・改善に外部模試等を全員対象とし積極的に活用する。また、各担任の進学指導スキルの一層の向上を図るための研修等を計画的に実施する。 ウ・「生徒支援委員会」「人権教育推進委員会」「帰国・渡日生連絡会」「学年会」等での情報共有を密にし、保健室や生徒相談室等の機能を生かす。 ・SCや関係外部機関との連携を進め、個別の課題等を抱える生徒への支援体制を充実させる。 ・いじめ、ハラスメントに関するアンケートの実施及び面談を充実させる。 エ・キャリア教育・人権教育・国際理解教育の一層の充実に向け、教員自らが研鑽を積む機会として、外部講師等の活用など、これまでの実践を継承・発展させる。 ・「総合的な探究の時間」でのSDGsに関する研究等を通じ、課題を見つけ探究し、解決し、発表・発信する能力を育成する。	ア「学力生活実態調査」における生徒の平均家庭学習時間を平日60分以上、休日平均90分以上に[1・2年平均平日37分、休日58分] イ・「学力生活実態調査」「B2ゾーン」以上の生徒割合2年生(2回め)50%以上をめざす。[39.9%]。 ア・イ 学習の質と量について、向上に向けて各教科で要因分析を行うと共に家庭での学習状況等、リサーチを行う。 ・現役生国公立大5人以上かつ関関同立70人以上の合格をめざす。[国公立3人、関関同立98人] ウ 自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率の向上。[84.9%] 「いじめについて真剣に対応」の肯定率90%以上の維持。[92.7%] ・自己診断(保護者)「保護者の相談に適切に対応」の肯定率85%以上の維持。[87.5%] エ 自己診断「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」[96.2%]、「人権について学ぶ機会がある」[97.2%]の肯定率90%以上の維持。	ア 平均家庭学習時間は平日37分、休日平均59分と昨年度と同程度となった。(△) イ・「学力生活実態調査」「B2ゾーン」以上は、上位を維持している生徒はいるものの37.6%(2.3%減)と減少した。(△) 職員会議で大型スクリーンに投影し成果と課題について共有している。 今後も学習の質と量の向上に向け、共有した成果や課題をもとに個別の事情も考慮しながら生徒に粘り強く助言と応援をし続ける。 ・現役生国公立大6人、関関同立82人。(○) ウ「悩みや相談に応じてくれる先生」の肯定率は90.2%(5.3%増加)、「いじめについて真剣に対応」の肯定率94.5%(1.8%増)と向上。(○) ・「保護者の相談に適切に対応」の肯定率90.4%(2.9%増)と向上。(○) 今後も生徒・保護者両者への相談対応の充実を図っていく。 エ「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」97.3%(1.1%増)、「人権について学ぶ機会がある」97.4%(0.2%増)と微増ではあるが、年間を通して学年ごとにテーマが明確で綿密に計画を立て実践しており、高い肯定率を維持しつつ、より向上することができた。(◎) 人権教育推進委員会を中心に今後もテーマの設定や講師の選定等、一層の充実を図る。 連携の大学・市役所・企業及び外部講師からも好評を得るなど校内・校外(LETS 合同発表会等)での研究発表の成果が認められる。 今後もDXハイスクール事業で整備した「Glocal Creative Lab(以下「GCL」という)」も生かし、調査や分析、アウトプットの質的向上につなげる。

2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現	(1) 自治活動及び学校行事の充実、部活動の活性化	ア・生徒の自治活動を充実させ学校活動の活性化を推進する。 ・「ノークラブデー」を実施し、部活動の活性化と効率化及び学習との両立をめざす。 ・行事の魅力化に向け、文化祭や体育祭、学年行事等について生徒会や関係生徒が主体的に企画・運営できるよう支援する。 ・「高校生万博チーム」など、主体的な参画を促進、応援することで自治活動の充実につなげる。	ア 自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率の向上。[89. 4%] ・自己診断「学習と部活動の両立を大切に する雰囲気がある」の肯定率の向上。 [84. 6%] ・自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、 意義深いものになるよう工夫されてい る」の肯定率の向上。 [92. 2%]	ア「学校に行くのが楽しい」は90. 1% (0. 7%増)と9割に達した。(○) ・「学習と部活動の両立」は87. 4% (2. 8%増)と向上した。(○) ・自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」は 96. 3% (4. 1%増)と向上し 96%超を達成した。(◎) 0. 7 から 4. 1%の増ではあるが、生徒会活動、各種行事や部活動など、生徒の自治活動に取り組む意欲的な姿勢が成果として現れた。 「高校生万博チーム」の活躍も含め、生徒の主体的な活動実践がさらなる挑戦等、新たな価値の創造にもつながっている。 今後も学校内外における自治活動の益々の充実、「挑戦と創造」と「応援と承認」を図っていく。
	(2) 生活規律を確立させる取組み	ア・生活規律を重視する指導を明確化し、生徒が自律的に場に応じた身だしなみや行動ができるよう指導する。 ・指導に際し、生徒・保護者の一層の理解を得るとともに、規則について再確認を行いながら教員間の共通理解と組織体制の充実を図る。 ・生徒が意見を表明する機会を確保するとともに、意見の尊重を図りながら生徒の状況に応じた指導の工夫と改善につなげる。 ・遅刻指導、服装指導、頭髪指導について継続する。 イ・交通安全指導、薬物乱用防止教育を充実させる。 ウ・SNS の正しい理解、携帯電話の使い方等について、PTA と連携して講演や研修を行うなど情報リテラシーや倫理観に関する啓発と指導を行う。	ア・年間総遅刻者数 1, 000 人未満維持[477 人] ・指導の工夫・改善、規則の見直しについては、生徒から意見を聴取する機会づくりなどを通じ、自治活動の尊重の視点から組織的・計画的に行う。 ・自己診断「指導に納得・共感」の肯定率の向上。[生徒76. 2%、保護者76. 8%] イ・交通安全及び薬物乱用防止について、それぞれ講演を実施し、指導の充実を図る。 ウ・自己診断「情報リテラシー」の肯定率80%以上。[79%] ・PTAと連携した啓発活動を行うなど、生徒・保護者・教職員が一体となって取り組めるような機会を創る。	ア・年間総遅刻者数447人 (○) ・全教職員で「共感と共創」の尊重を共有するとともに、生徒会執行部及び生徒部・生徒会間での連携が深まった。特に「学校生活向上PT」を中心に生徒の意見や要望を受けとめ、可能な限り提案の速やかな実現に繋げた（中庭の芝生化、駐輪場へのコーナーミラーの設置、夏服の検討開始など)。(◎) 今後も「学校生活向上PT」を中心に、自治活動を尊重しながら向上を図っていく。 ・「指導に納得・共感」は生徒 82. 3% (6. 1%増)、保護者 86. 5% (9. 7%増) となった。(◎) 今後も引き続き「共感」の姿勢を尊重し、生徒・保護者両者に理解を得られるように努める。 イ・交通安全については近隣の自動車教習所から講師を招き、特に自転車の安全運転の講習を行い啓発に努めた。 11 月の専門家による薬物乱用防止教室に加え、長期休業前の終業式後の生徒部長注意や各担任から注意喚起を徹底している。(○) 交通安全及び薬物乱用防止について、引き続き指導・啓発の方法の工夫などを含め充実を図っていく。 ウ・教員の診断項目「情報リテラシー」の肯定率は 88. 9% (9. 9%増)と向上した。(◎) 「情報」の授業に加えて、HR活動、集会や始・終業式、講演会等で啓発と指導の充実を図っている。 ・毎年1, 2年生対象の人権講演会で「スマホやネットに潜むキケン」「SNSのリスク」をテーマに専門家をお招きし、保護者にも案内文書を配付し一体となった啓発を図っている。(○) 今後はPTAとの共催として保護者の参加促進につなげる、啓発DVDを活用するなど、引き続きPTAも巻き込みながら啓発に努める。
	(1) 英語 4 技能の育成とコミュニケーション能力・プレゼンテーション力の伸長	ア 英語 4 技能の育成を進めるため、指導の工夫を行うとともに、国際文化科 1・2 年生に対して英検等外部検定の受験を推奨する。 イ・大学や関係機関との連携を生かし英語暗唱弁論大会の更なる充実を図る。 ・GL ホールや DX ハイスクールで整備した機器等を活用し、発表内容の充実、プレゼンテーション能力の向上を図る。 ・ポスターセッション等の実施を踏まえ「インターナショナルフェスティバル」「LETS 合同発表会」等へ積極的な参加を促す。	ア 英語外部検定受験を推奨し、英検については国際文化科全員受験を実施する。卒業時の 2 級合格 60%以上、準 2 級合格 85%以上[38%、62%]。 イ 自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率 90%以上。[90. 1%]	ア 英検は国際文化科全員 76 名が受験した。 <61 期生卒業時取得者数>R8. 3 月末 準 1 級：3 名・3. 9% (1 %) 2 級：30 名・39. 5% (38%) 準 2 級：61 名・80. 2% (62%) (△) さらに、今年度も 12 月までに受験が終了した 50 名程の 3 年生が TOEIC 対策講習に出席し、スコア獲得に挑戦している。 国際文化科に提示された設定目標は高いが、目標に向かってたゆまぬ努力を続ける。 イ 自己診断「授業では自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率は 94. 7% (4. 6%増)と向上した。 「総合的な探究の時間」や各教科でのプレゼンテーションに加え、英語暗唱弁論大会、インフェスや合同発表会への積極的な参加と努力、活躍は評価に値する。(◎) 「総合的な探究の時間」や各教科・科目の授業で培われた探究力と日本語でのプレゼンテーション能力を基盤に、日々の指導とサポート、関係機関との連携を生かし、英語や第二外国語の活用能力を高めつつ外国語でのプレゼンテーション能力の向上も図っていく。

	(2) 国際文化科設置校としての取組みの充実・国際交流活動の更なる充実	ア オンラインを含む海外交流や海外研修の推進を図る。 イ 異文化理解の推進に向けて、近隣の大学等との連携を生かし、外部講師等を活用した講演やゲストティーチャーによる授業等を各学年で実施。 ウ ボランティア活動やあいさつ運動ユニスコ・スクール等の取組みについて、生徒会と関係クラブ等が連携できるよう支援する。また、活動成果等を学校全体で共有しその輪を広げていく。	ア・オンラインを含む国際交流や海外研修を合わせて年間 8 件以上実施する。[9 件] イ 自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率 90%以上の維持。[94. 7%] ・近隣の外国語大学との更なる連携の充実、「姉妹校交流支援事業」に向けて組織的・計画的に取組みを進める。 ウ 自己診断「他の学校や地域の人と交流する機会がある」の肯定率の向上。[77. 1%] ・GL ホールや DX ハイスクールで整備した環境も生かして交流活動を更に充実させ、新たな活動を 2 件以上実施する。	ア・12 件実施し年間を通じ交流の充実を図った。 [関外大インターシップ、AFS 留学生交流、観光局連携、ワライン交流、語学研修の改善、暗唱発表大会、1 年国際理解プログラム、2 年インフェスでの成果発表、台湾修学旅行、英検放課後・冬期講習、関学学生との交流、関西外大での留学生との交流]。 その成果として、異文化理解に加え、生徒のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等が発揮され向上につながった。(◎) イ「国際交流活動が活発」の肯定率は 93. 8% (0. 9% 減) となったが、保護者「特色ある教育活動に取り組んでいる (82. 6%6. 0%増)」「国際社会等の教育課題に取り組んでいる (89. 8%2. 5%増)」及び教職員「国際理解等の教育課題を取り入れている (84. 6%13. 6 増)」の結果も考慮し異文化理解や国際交流活動の活性化に向け学校あげて実践しておりその成果を得られていると捉えている。(○) ・関西外大に加え京都外大との連携も見据えて、引き続き生徒の異文化理解、外国語活用能力の向上を図っていく。「姉妹校提携 PT」を中心に今年度中に新たな姉妹校との提携を結び、次年度以降の海外語学研修の実施につなげていく。 ウ 「他の学校や地域の人と交流する機会がある」の肯定率は 79. 9% (2. 7%増) と向上した。(○) 今年度も近隣の保育所との風揚げ、長尾高校との生徒会交流、部活動を通した小・中・高・支援学校との交流が昨年度以上に深まっている。 観光局を通じメキシコから来日した中高生 30 数名と DX ハイスクール事業で整備中の「GCL 1 (食堂)」や GL ホールで大勢の生徒と交流を深めた。 芝生化した中庭での吹奏楽部による演奏会、「GCL 2 (会議室)」での公開授業、新たに 2 月 5 日にむらの高等支援学校の 30 数名の生徒が来校し 2 年生全員と 2 展開でドッチビー競技を通じ交流を楽しんだ。生徒に加え教員間の交流にもつながっている。 また、藤棚の整備に加え、PTA 実行委員の方々の協力も得ながら生徒会と生物飼育部による正門横の花壇を整備中である。新たな活動は 5 件以上であった。(○) こうした交流活動を今後も更に活性化させ、生徒間のみならず教員どうしの交流、気づきや学びの創出につなげていきたい。
4 教員組織体制強化と環境整備	(1) 広報活動の一層の充実	ア・広報機能の更なる充実を図り、学校説明会の活性化や中学校等が主催する進学説明会へ積極的に参加する。 ・説明等に生徒がより一層関わることで本校生徒の活躍を伝え、学校への理解を深める。 イ・学習支援クラウドサービスの活用等により、保護者への情報発信を充実させる。 ・学校ホームページの内容の精選と適宜更新を図る。 ・公式 SNS や動画配信サービスの充実を図り広報の充実を図る。	ア学校説明会の参加者数 1, 500 人以上の維持。[1830 人] イ 自己診断保護者「枚高の学習支援クラウドサービスによる連絡は役立っている」の肯定率 90%以上。[91. 5%]	ア 参加者数は 1520 人となった。(○) 説明会での説明、校内見学の案内・説明、部活動紹介での活躍等、生徒会・国際文化科・各部活動・有志の生徒が積極的に参加し活躍している。 こうした活躍に対し事後アンケートでも好評を得ている。 今後も生徒の活躍を通して、生徒の日常の様子や校風、学校の教育活動について理解を図る。 イ 自己診断保護者「クラウドサービスによる連絡は役立っている」の肯定率は 93. 4% (2. 0%増) と更に向上した。(○) 生徒の肖像権や個人情報管理を徹底するため本年度予算を生かして公務用の端末を購入する。次年度以降もガイドラインに即して端末の活用と管理の徹底を図りつつ、生徒の活躍を効果的に周知できるよう広報活動の充実をめざす。

	(2) 教育環境のさらなる充実	ア・ICT 機器の授業での活用を組織的に進めるため、環境の改善や充実に努める。 ・PTA「部活動支援基金」による中庭の芝生化に伴い、教職員と生徒が協同して維持管理を行うことで、憩いと活動の場として保全と活用を進める。 イ・会議でのプロジェクター活用、新システムを含む校内イントラネット、教員のタブレット端末の活用等により、会議資料ペーパーレス化・効率化を一層推進する。 ・各種会議、委員会において、各教員が共通の情報の元、意見交換を行うとともに全般の効率化により時間短縮を図る。 ウ・多様な教育ニーズへの対応が求められる中、全ての教育活動及び指導の中で、生徒の主体性や創造力、自己肯定感を高められるよう「生徒の安全・安心、自信の醸成」の実現により一層取り組む。 ・その実現に向け、生徒・保護者・教職員が相互に共感的・協調的な「対話」を通して理解を深め、取り組めるような関係性と場づくりに努める。 ・国や大阪府の様々な教育改革等にも対応できるよう、必要なPTを立ち上げるなど計画的・組織的な運営を推進する。	ア・DX ハイスクールで整備した機器や ICT 環境の機能を組織的に活用し、さらなる授業改善と生徒の活用能力の向上を図る。 ・教員の活用率の 95%以上維持。 (自己診断「教員の ICT 活用」[96.4%]) イ・職員朝礼時等に府通知等をデータで送付し、服務規律を含めた情報共有の効率化を一層進める。 ・職員会議や各種会議でのペーパーレス化を一層進めるとともに、共通理解の徹底を図る。 ・各種会議に向け教職員は会議前に内容を確認するとともに、説明者はポイントを絞り明確かつ簡潔に説明する。 ・特別な場合を除き、各種会議を1 時間以内に終えることを目標に円滑に進める。 ウ・教職員間での共通理解を図る場・機会を創るとともに協力体制の充実を図る。 ・自己診断教職員の肯定率の向上 「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」72%以上。[71.4%] 「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」80%以上を維持。[85.7%] ・自己診断保護者の肯定率の向上 「PTA 活動が活発である」80%以上を維持。[80.3%] ・自己診断生徒の肯定率の向上 「先生は生徒の意見を聞いてくれる」80%以上を維持。[83.7%]	ア・授業や研修、会議には活用しているが、整備機器の効果的な活用法を教員間で共有し、授業や講習等で有効活用できるようにする。 放課後等に生徒が自主的に協議やプレゼン練習に活用できるよう、ルール化の下で自由度も持たせるなど運用上の整備も進める。 食堂 (GCL1) についても年度内にリニューアルが完了する。生徒の主体的な活動に利活用できるようにする。 ・「教員の ICT 活用」は 100% (2.6%増) となった。(○) イ・ネットワーク上での共有は定着しているが、案件の内容によっては、職員室に掲示し呼びかけるなど周知徹底を図るようにしている。(○) ・会議資料ペーパーレス化は進んでいる。(○) 内容によっては共通理解や意思統一につながるよう意見交換や協議の時間を設けることも必要である。 ・説明は簡潔になり効率化は進んでいる。(○) ・所要時間内に終了できるよう円滑に進められている。(○) 事前に案件を確認し、意見交換が必要な案件については焦点化し時間配分しておくなど準備が必要である。 ウ・「将来構想委員会」や各種 PT が主体となり、定例会議に加え、夏季休業中など時期を選び自由に意見交換できる場づくりがなされた。 オープンマインドで参加でき自由な発想や意見が寄せられたことから今後もこうした場づくりに努める。(○) ・自己診断教職員 「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」83.3% (9.6%増) (◎) 「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」 94.4% (7.6%増) (◎) ・自己診断保護者 「PTA 活動が活発である」86.1% (5.8%増) (◎) ・自己診断生徒 「先生は生徒の意見を聞いてくれる」 88.8% (5.1%増) (◎) 本年度の学校運営全般の実践を総攬すると、「具体的な取組計画・内容」ウに示す三つの内容と合致する、誠実で粘り強い姿勢と行動が認められた。 <三つの内容> 『生徒の主体性や創造力、自己肯定感を高められるよう「生徒の安全・安心、自信の醸成」の実現により一層取り組む。』 『その実現に向け、生徒・保護者・教職員が相互に共感的・協調的な「対話」を通して理解を深め、取り組めるような関係性と場づくりに努める。』 『国や大阪府の様々な教育改革等にも対応できるよう、必要なPTを立ち上げるなど計画的・組織的な運営を推進する。』 不十分な点も含め、本年度の課題にも誠実に向き合い、改善と解決に向けて協力して取り組む。
--	------------------------	---	---	---